

ペインクリニック治療指針 改訂第5版の参考文献について

参考文献に関しては、第4版と同様に、掲載する論文を選ぶためのデータベースとして、日本語論文は医学中央雑誌、英語論文はMEDLINEに収録された国内外論文とした。検索対象は2015年までに発表された論文の中から、基本的になるべく新しい論文から選択する方針であったが、有用な文献は過去に遡っての引用とした。個々の疾患に従ってキーワード（神経ブロックなど）を決めて検索式を作成し、関連する論文を検索した。検索された文献について研究デザインやエビデンス（EBM）のレベル（勧告の強さ）の観点から本治療指針の作成に採用するかどうかを決定した。

論文の採用にあたり、無作為化比較試験（randomized controlled trial：RCT）を前提条件としたが、これにあたらぬ論文であっても内容的に価値が高い論文は参考に値するものとした。また、エビデンスレベルは、わが国で作られ、わが国で頻用されているMinds（Medical information network distribution system）を用いた。

論文の分類

- G1 RCT（無作為化比較試験）があり有効な論文
- G2 中等度の有効性がある論文
- G3 有効性がはっきりしない論文
- G4 症例報告など
- G5 権威者の論文

エビデンスレベル（Minds）

- I システマティックレビュー/RCTのメタアナリシス
- II 1つ以上の無作為化比較試験による
- III 非無作為化比較試験による
- IVa 分析疫学的研究（コホート研究による）
- IVb 分析疫学的研究（症例対照研究、横断研究）
- V 記述研究（症例報告やケースシリーズ）による
- VI 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見